

発寒ひかり 保育園だより

2020年
7月号

巻頭言

この春はコロナによる外出自粛などで、大人も子どもも我慢の春でした。SNS等では、お家時間が増え「家庭保育が大変だ」との声が聞こえることも少なくありませんでした。

ふと、長男が新生児の頃に「この子を泣かせてはいけない」と自分の食事もトイレもせずに、ただ一日中抱っこして過ごしていたことを思い出しました。他にも「くしなれば」という思いで必死でしたが、毎日思い通りになる訳もなく「今日もできなかつた」と落ち込む日々でした。

そんな時に出会ったのが「今日」という詩でした(裏面参照)。偶然出会ったこの詩に、「この子のためにきちんと子育てをしなくては」と気を張っていた私の心がすつと軽くなり、「私はこの子と笑って過ごせていただろうか」と自分を見つめ直しました。

保育園から帰ってきてからは、時間との勝負です。食事、洗濯、お風呂…、一息つく間もなく、寝かしつけ。一生懸命頑張るほど、眉間にしわが寄ることも。そこで、少し手を抜いて家事のやり残しに目を瞑り、子どもとふれあう時間を大事に過ごすことにしました。時間に追われずに、ゆっくり子どもと笑顔で過ごすことが私の心の余裕にもつながり、私たち親子にとって大切な時間となりました。

外出自粛も緩和され、保育園も段々と日常に戻ってきました。子どもたちは様々な刺激を受けて発見の毎日です。親子でホッと一息の時間に保育園での話題はいかがでしょうか。ノートやボードなどのお子さんのエピソードもご参考になさって下さい。

副主任保育士 笛木 菜未

今日 (today)

～ニュージーランドの子育て支援施設に伝わる詩より～

作者 不明

訳 伊藤 比呂美

画 下田 昌克

(福音館書店)

今日

わたしは お皿を洗わなかった

ベッドはぐちゃぐちゃ

浸けといたおむつは だんだんくさくなってきた

きのうこぼした食べかすが 床の上からわたしを見ている

窓ガラスはよごれすぎてアートみたい 雨が降るまでこのままだと思う

人に見られたら なんていわれるか

ひどいねえとか、だらしがないとか 今日一日、何をしていたの?とか

わたしは、この子が眠るまで、おっぱいをやっていた

わたしは、この子が泣き止むまで、ずっとだっこしていた

わたしは、この子とかくれんぼした

わたしは、このこのためにおもちゃを鳴らした、それはきゅうっと鳴った

わたしは、ぶらんこをゆすり、歌をうたった

わたしは、この子に、していいことと わるいことを、教えた

ほんとにいったい一日 何をしていたのかな

たいしたことはしなかったね、たぶん、それはほんと

でもこう考えれば、いいんじゃない?

今日一日、

わたしは 澄んだ目をした、髪の毛ふわふわな、

この子のために

すごく大切なことを していたんだって

そしてもし、そっちのほうじゃなくなるとしたら、

わたしはちゃーんとやったわけだ

